

第126号 通巻22巻 第5号

2003年1月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

守山市服部町2250番地

あけまして おめでとうございます。

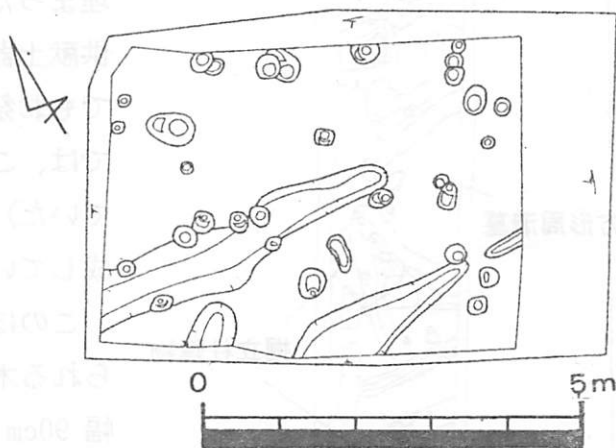
昨年は4月から12月までに本調査や確認調査、立会調査を含めると、66件にもなりました。区画整理関連を除くと、小規模の調査が多かったことから、今後もこの傾向が続くような状況です。

さて、今号では、前回以降に実施しました調査と調査中の2件、さらに金製の^{うつろだま}空玉が出土した播磨田東遺跡の終了報告を合わせて報告します。

調査終了

1. 播磨田西遺跡（4次）の調査

個人住宅建築に伴う調査を実施しました。調査の結果、古墳時代後期の溝と平安時代の柱穴群を検出しました。昨年度に実施した3次調査では、低湿地状の落ち込みから古墳時代後期～平安時代にかけての遺物が出土し、落ち込みの北側に集落の存在が想定されました。今回の調査成果はこれを裏付ける結果となり、調査地点が集落の南端に位置していることがわかりました。（小島）



播磨田西遺跡遺構全体図

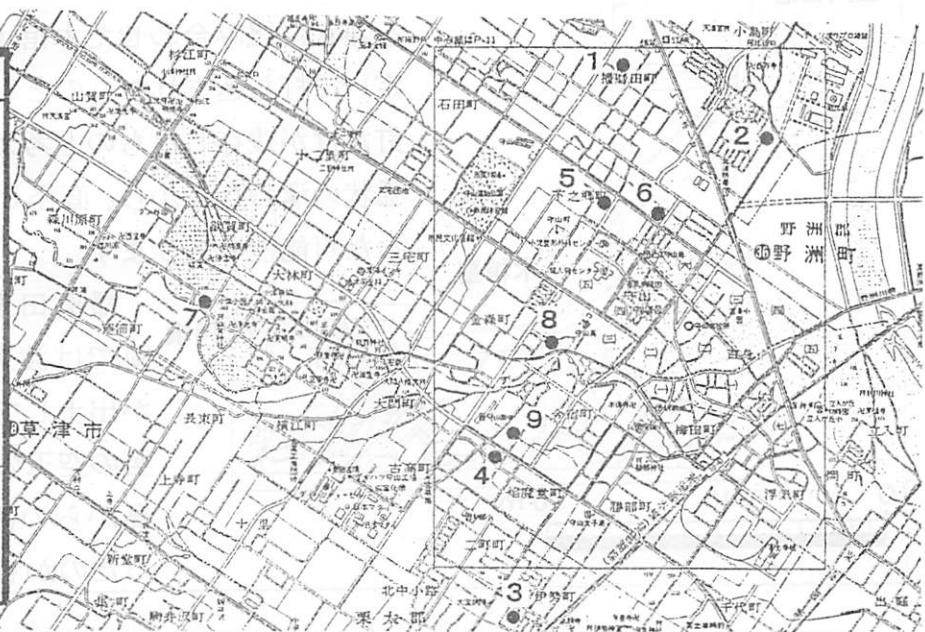
目次

調査終了

- | | |
|----------------|----|
| 1. 播磨田西遺跡 | 1p |
| 2. 播磨田東遺跡（12次） | 2p |
| 3. 伊勢遺跡 | 3p |
| 4. 古高城遺跡（10次） | 3p |
| 5. 下之郷遺跡（51次） | 4p |
| 6. 酒寺遺跡（53次） | 4p |
| 7. 欲賀南遺跡（3次） | 4p |

調査中

- | | |
|---------------|----|
| 8. 金森東遺跡（30次） | 5p |
| 9. 古高・経田遺跡 | 6p |



2. 播磨田東遺跡（12次）の調査

宅地造成工事に伴い、約 1,000 m²を対象に実施した発掘調査も 10 月中旬に終了しました。今回の調査では、弥生時代後期の竪穴住居 2 棟や古墳時代初頭～前期にかけての方形周溝墓 2 基、古墳時代後期の円墳 2 基、古墳時代後期以降の掘立柱建物 2 棟などを検出しました。これらの調査成果から、一帯は弥生時代中期から後期にかけて集落が営まれ、古墳時代初頭頃に墓域となり、古墳時代後期（6～7 世紀）に再び集落と墓域が営まれたことがわかりました。

古墳時代後期の円墳はいずれも墳丘が削平されていましたが、周りに掘られた周濠から直径 10m 程の規模であったことがわかります。周濠内には墳丘から転落して埋まった土器のほかに、明らかに「置いた」とみられる供献土器（供えられた土器）があり、墳丘以外に周濠内でもお祭りや儀式を行っていたことがわかります。周辺では、これまでに 7 基の古墳（いずれも墳丘は削平されていた）が確認されており、これらと同一の古墳群を形成していたと考えられます。

このほか、古墳時代後期頃（詳細な年代は不明）とみられる木棺墓も見つかりました。木棺墓は長さ 2.6m、幅 90cm の長方形で、中から鉄釘が横四列に並んだ状態で出土したほか、東端付近から副葬品とみられる金製の空玉^{うつろたま} 2 個とガラス玉 1 個が見つかりました。鉄釘は木を箱状に組み合わせた木棺（長さ 1.7m、幅 40cm 程と推定）に打ち込まれたものとみられ、木が腐食した後、鉄釘だけが残存したものと考えられます。なお、西側の円弧状の溝の存在から、直径 5 m 程の削平された円墳であった可能性もあります。

播磨田東遺跡や隣接する阿比留遺跡では渡来人の活動を示す韓式土器が出土しています。近江でも珍しい金製の空玉の持ち主は、あるいは朝鮮半島からの渡来人またはその子孫であったのかもしれません。（小島）

播磨田東遺跡遺構全体図

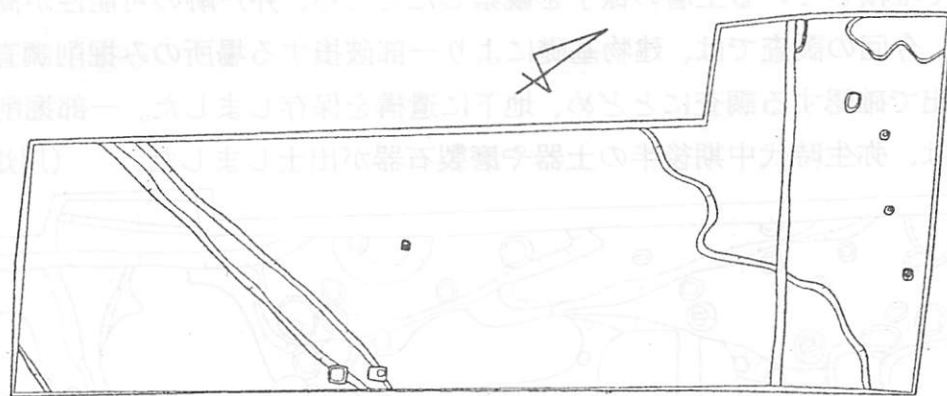


3. 伊勢遺跡の調査

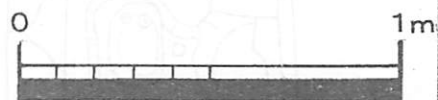
83次

宅地造成工事に先立ち、道路予定地の調査を実施しました。調査では、東西方向に掘られた溝と若干の柱穴を検出しました。溝の年代は不明ですが、昨年度実施した隣接地の調査（78次調査）で見つかった古墳時代の建物と方向が同じであることから、ほぼ同様の年代が考えられます。あるいは、建物を区画するような性格の溝であったかもしれません。

（小島）



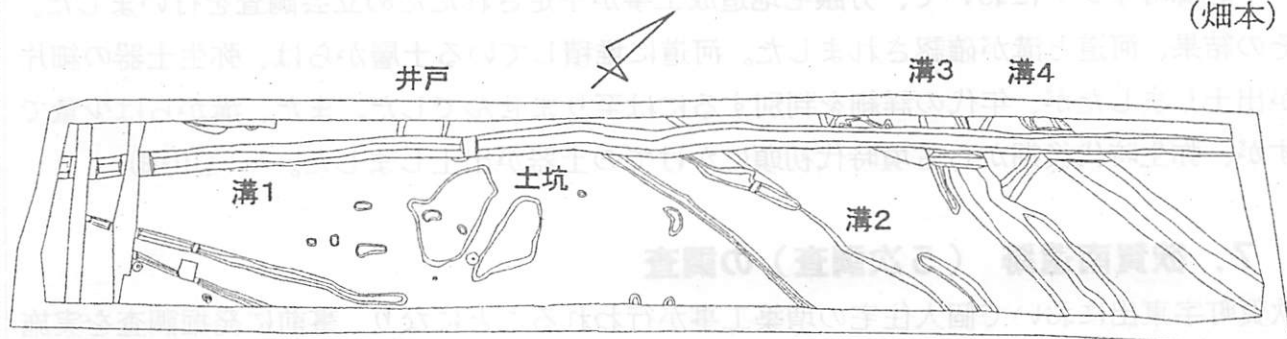
伊勢遺跡遺構全体図



4. 古高城遺跡（10次）の調査

古高町字小辻において、宅地造成に先立つ調査を11月20日から12月11日まで実施しました。先に行った試掘から、道路予定地内で遺構が見つかった範囲、約350㎡が対象です。調査では、溝、土坑、井戸、ピットなどを検出しました。溝1は調査区を縦断する約80cmの溝で、灰色砂層の中から土師器の皿や灰釉陶器、緑釉陶器が出土し、平安時代の溝とわかりました。溝2～溝4は東西に走り、黒褐色粘土で覆われていましたが、溝2から須恵器の杯身や蓋が、また、溝3、4から土師器の甕が出土していて、それぞれ、奈良時代と古墳時代後期の溝と考えられます。井戸は曲物を3段に積んだ状態で見つかりました。遺物がほとんどないため時期ははっきりしませんが、おそらく中世の頃と思われます。

（畑本）

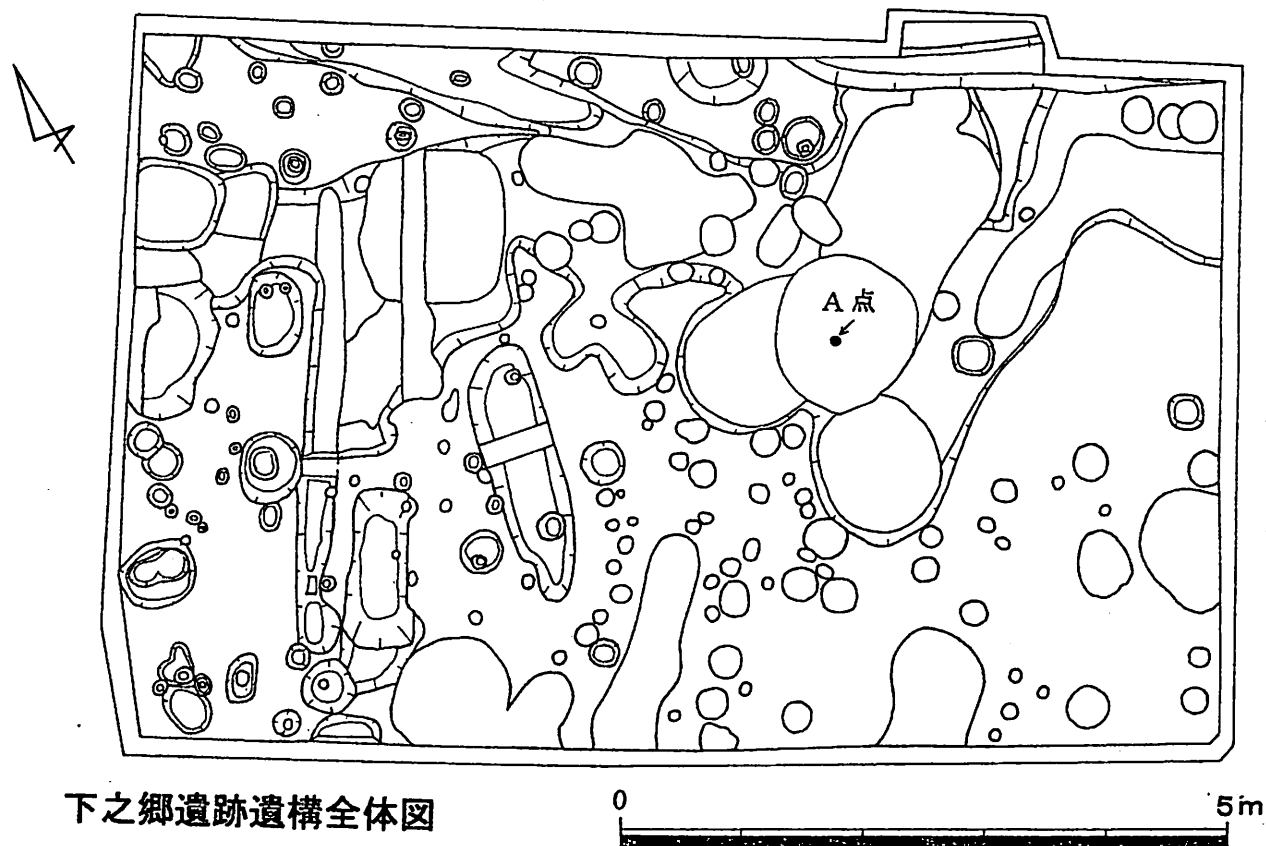


古高城遺跡遺構全体図



5. 下之郷遺跡（51次）の調査

下之郷町字皆広において、個人住宅建築に先立ち発掘調査をおこないました。調査地は三重環濠の内側（南西端）にあたる部分で、現地表より約30cm下からたくさんの柱穴や土坑、溝などが見つかりました。見つかった土坑のうち、A点についてボーリングステッキを使って地下の様子を探ってみたところ、1m以上下まで掘られていることがわかりました。そして堆積している土層の様子を観察したところ、井戸跡の可能性が高いことが判明しました。今回の調査では、建物基礎により一部破損する場所のみ掘削調査し、それ以外は平面検出で確認する調査にとどめ、地下に遺構を保存しました。一部掘削調査した柱穴や溝からは、弥生時代中期後半の土器や磨製石器が出土しました。（川畑）



下之郷遺跡遺構全体図

6. 酒寺遺跡（53次調査）の調査

下之郷町字シノにおいて、分譲宅地造成工事が予定されたため立会調査を行いました。その結果、河道と溝が確認されました。河道に堆積している土層からは、弥生土器の細片が出土しましたが、年代の詳細を判別するには至りませんでした。また、溝からは少量ですが、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が出土しました。（川畑）

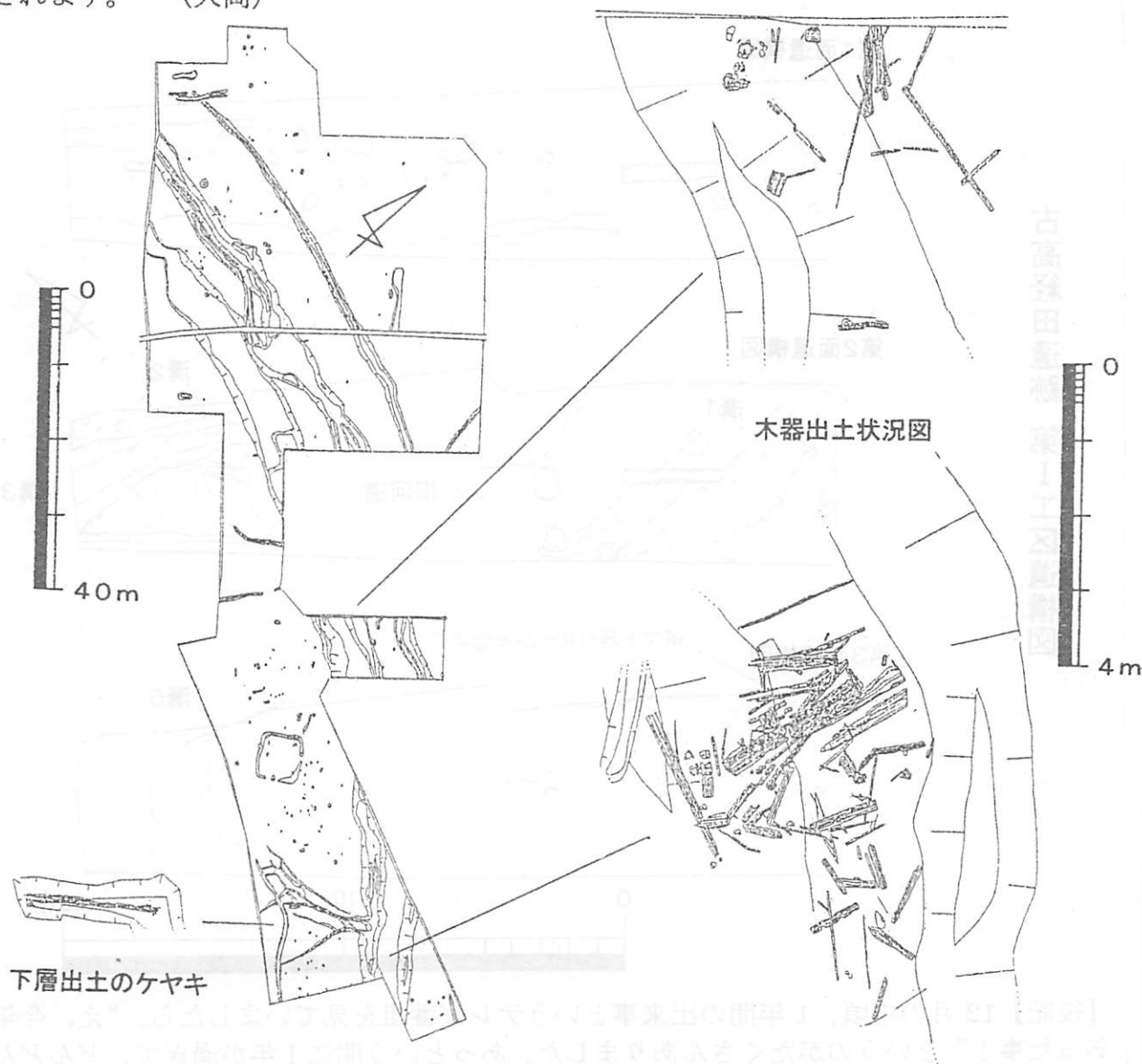
7. 欲賀南遺跡（5次調査）の調査

欲賀町字東出において個人住宅の増築工事が行われることになり、事前に発掘調査を実施しました。その結果、地表面から約1m下の地点で古墳時代から中世にかけての溝や柱跡などが見つかりました。（川畑）

調査中

8. 金森東遺跡（30 次）の調査

第Ⅱ工区では、前回紹介した溝や旧河道の続きが見つっています。旧河道からは弥生時代後期末から古墳時代前期にかけての土器とともに、たくさん木製品が出土しました。木製品は鋤などの農具や建築部材で、建築部材は板材が多く、長さが2mを超えるものもあります。以前に行われた守山高校東側の第15次調査では50棟以上の竪穴住居が見つっており、今回見つかった建築部材もこうした竪穴住居に使用された可能性が考えられます。また、下層からは長さ17m以上、最大径1mのケヤキの倒木が見つかりました。共伴の土器が細片で明確な時期は不明ですが、おそらく弥生時代中期以前のものと考えられます。昨年度の調査でも下層から倒木が見つかり、周辺に森があったことが想定されます。（大岡）



金森東遺跡 第Ⅱ工区 T-9～T-13 調査区遺構全体図

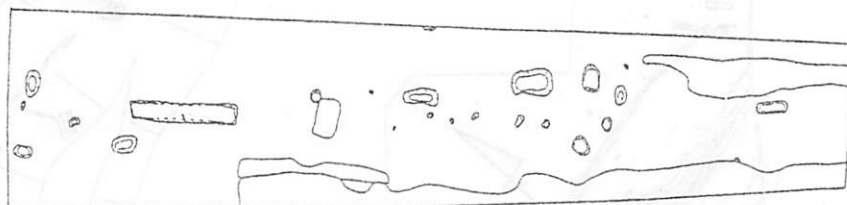
9. 古高・経田遺跡の調査

第Ⅲ工区の調査中、緊急で第Ⅰ工区の水路部分を調査しました。調査地は、平成8年に古代学協会が実施した経田遺跡の西隣にあたります。遺構は、表土下で第1面を検出し、さらにその下で第2面、第3面を検出しました。

第1面では、中世以降の土坑、ピット、溝などを確認しました。第2面では中世の溝（溝1～溝3）から古墳時代の旧河道まで、大小複数の溝が見つかりました。幅12m以上もある旧河道は、深さが2mあり少量ながら木器が見つかっています。第Ⅰ工区で見つかった旧河道が北に向かって流れているものと思われます。第3面では古墳時代中期の溝（溝5）が見つかりましたが、この溝は位置から見て、古代学協会の調査で検出された溝の一部ではないかと思われます。また、第3面の各遺構の底で確認した砂層から、少量の縄文土器も見つかっていることから、この時代の遺構は削平を受けているかも知れません。

次回の乙貞では西から調査に入っている第三工区の報告をする予定です。（森山）

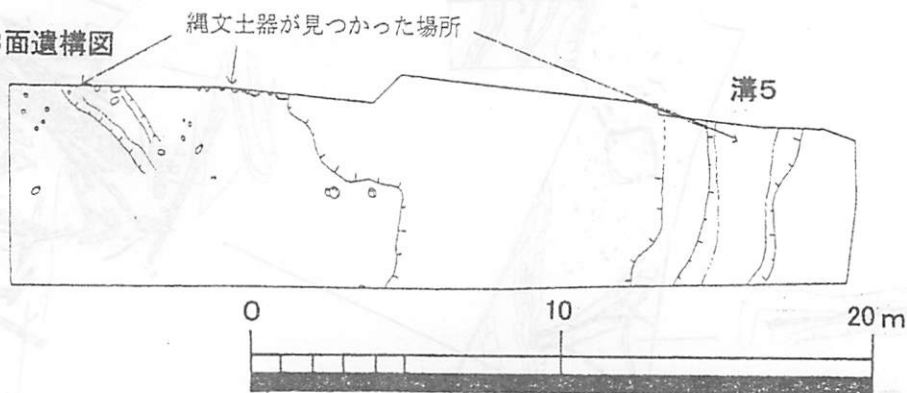
第1面遺構図



第2面遺構図



第3面遺構図



古高経田遺跡 第Ⅰ工区遺構図

【後記】12月の中頃、1年間の出来事というテレビ番組を見ていましたら、“え、今年にあった事！”というのがたくさんありました。あっという間に1年が過ぎて、どんどん変わっていく世間のスピードについていけない“証”でもあるのでしょうか。（Ha）